

Global Classmates

SNS時代の国際交流

英語科 横野 健二

昨年度9月から3月末にかけてGlobal ClassmatesというSNSを用いたプログラムで、アメリカの高校と交流をした。一定のディスカッション・トピックを決め、それに関して両校の生徒が互いにメッセージを投稿し、相手校からのメッセージにはreplyを返すことが主であったが、それ以外に、行事などの様子を写真で紹介するMedia Album, 参加校同士がプレゼントを贈り合うOmiyage Exchange, ビデオによってお互いの学校生活の様子を紹介し合うGlobal show youの活動も併せて行った。参加生徒のほぼ全員が、アメリカの高校生との交流に満足感を覚え、また英語でのコミュニケーションに対する意欲、アメリカ文化に対する理解、異文化交流に対する積極的な姿勢の向上の面で成果を感じていた。一方、英語運用力の向上が実感できた生徒は3分の1程度にとどまった。また、より少人数で濃密に交流したり、ビデオ会議ソフトなどでのリアルタイムの交流を望む声も少なからずあった。

キーワード：異文化交流 SNS 英語教育 フルーエンシー・ワーク (fluency work)

オーセンティック・コミュニケーション (authentic communication)

1. はじめに

本稿は、平成25年度9月より3月にかけて行ったグローバル・クラスメート (Global Classmates) というアメリカの高校との交流活動の実践報告である。

2. グローバル・クラスメートとは

Kizuna Across Cultures (KAC) というアメリカの非営利団体 (NPO) が運営する日米高校交流プログラム。2012年より実施されている。元々は東日本震災に被災した東北地方の高校を支援する意味で始まったようだが、実際にはそれ以外の地域の高校も対象にしている。日本とアメリカの高校1校ずつがペアとなって、9月から翌年3月までの7か月の間交流を行う。2013年度には、本校を含めた15の日本の高校がそれぞれアメリカの高校と交流を行っていた。

3. グローバル・クラスメートの主な活動

(1) メッセージの交換

活動の中心は、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) であるSchoologyというウェブ・サイト上でのメッセージの交換である。パートナーとなった日米の高校の生徒が、いろいろなトピックについてお互いにメッセージを投稿し、相手校の生徒が投稿したメッセージに対してはreplyを送信する形で交流をする。なお、サイトへの登録は実名と顔写真の公開が必要で、匿名での参加は認めていない。

なお、「メッセージの交換」以外に次の3つの活動も行われている。

(2) Media Albums

学校生活や行事などの様子を撮影した写真をアルバム形式の専用ページで公開する活動である。テーマごとに独立したページの設定が可能である。

(3) Omiyage Exchange

パートナー校の生徒に贈り物を贈る活動であるが、単に物を贈っておしまいではない。Omiyageを贈る側は、贈る品物の説明の文章を同封することになっている。またOmiyageを受け取った側の高校は、生徒がそれを開封する様子をビデオに録画し、そのビデオを Schoology に投稿することが求められている。

(4) Global show you

お互いの学校での日常生活や行事、クラブ活動、さらには学校外の活動なども含め、それらを紹介するビデオを作成し、相手校の生徒に公開する活動である。なお、ビデオの投稿・公開に関しては、Schoology に直接アップロードするのではなく、YouTube のサイトを利用することになっている。

なお今年度からはこの活動は、「ビデオ甲子園」というビデオ・コンペティション形式に変更されている。

4. 参加のきっかけと交流開始まで

(1) 参加のきっかけ

本校のグローバル・クラスメート参加は、ある卒業生からの誘いによるものであった。それは長島志乃ぶさんという人で、現在米国カリフォルニア州の Stevenson School という高校に日本語の教師として勤務している。その方より、5月末に学校宛てにメールが送られ、彼女の日本語のクラスの生徒がグローバル・クラスメートに参加するに当たって、その相手校になることを本校に依頼してきたのである。その後6月中旬になって、長島さんが本校を訪問し、グローバル・クラスメートの具体的な内容と彼女の勤務する高校の様子を聞かせてくれた。本校側では、副校長、研究部主任、そして英語科教員2名が対応した。そして、プログラムの内容と Stevenson School とその生徒の様子を知るなかで、是非本校もこのプログラムに参加したいと思う

に至り、長島さんの誘いに乗って相手校となることを決定した。

(2) オンライン・オリエンテーション

グローバル・クラスメートへの参加が決定した後、8月中旬にKACによるオリエンテーションが行われた。それはGoogleのhangoutというテレビ会議サービスを使ったものがあった。そして、日本の金沢より本校英語科教員が2名、米国カリフォルニア州より長島さん、そしてワシントンDCよりコーディネータの吉野麗子さんという、三元中継によるオリエンテーションが行われた。その中で、グローバル・クラスメートについての説明を受けると同時に、その後半年間の全体のスケジュールの決定の仕方などを話し合った。

なお、相手校の担当者の長島さんやコーディネータの吉野さんと直接話げできたのは、長島さんの本校訪問時と、このオンライン・オリエンテーションのみで、それ以外はすべてメールのやり取りを通して、相談や依頼や要望などを交換し合っていた。

(3) 参加形態の決定

さて Stevenson School の方は、長島さんの日本語の授業の中の活動としてグローバル・クラスメートに参加する。そのため、その授業を履修している生徒全員が参加をする。しかし、それでも多くても30名強くらいで、最終的には参加生徒数は25人となった。

一方、こちらは授業の活動としてグローバル・クラスメートに参加するのは難しいと思われた。一学年全体で取り組むと、こちらの参加生徒数は120余名となり、あまりに多すぎる。特定のクラスのみを対象にすると、そのクラスのみ常に授業の進度が遅れてしまうし、他のクラスの生徒の中に、参加できないことに対する不満も生じそうであった。また、学年の選択にも難しい面があった。1年生を対象とすると、9月、10月は英語力の面で少し不安が感じられる。一方2年生を対象とすると、受験を意識し

始める3学期になった時、最後まで意欲的に取り組み続けてくれるかどうか心配でもあった。

そのようなことをいろいろ考える中で、本校の側は、授業の活動ではなく部活動・同好会活動に準じた有志生徒による放課後の活動と位置付けた。そして、活動の内容をごく簡単に説明した印刷物を1・2年生全員に配布して、希望者を募ることとした。

どのくらいの数の生徒が参加してくれるかというこちらの心配をよそに、各クラスとも10名以上、1,2年生合わせて約80名の参加希望者が集まった。しかし、相手校の参加生徒数はすでに25人に決定しており、また本校のコンピュータ室の稼働可能なPCの台数が43台ということもあって、全員を参加させることは不可能に思えた。そのため、希望の生徒を集め、各クラス6～7名に絞るよう指示した。そしてその結果、1年生19人、2年生21人の計40人が参加することになった。

またStevenson Schoolの方は、8人と17人の二つのクラスに生徒が分かれているということで、こちらも生徒を1年、2年各1クラスずつの14人と、各2クラスずつの26人に分け、それぞれ8人対14人のグループAと、17人対26人のグループBの二つのグループに分けて交流させることにした。ただしOmiyage ExchangeやGlobal show youに関しては、参加者全員で1つの活動に参加する形にした。

(4) 活動日と活動場所

基本的に週一回の活動が想定されているので、放課後の行事などを考慮した上で、毎週火曜日の放課後に活動を行うことにした。便宜上その活動をSessionと名付け、生徒への連絡の際には「Global Classmates Session 1」のような名称を用いた。活動場所はコンピュータ室とし、その時間はグローバル・クラスメートがその部屋を専有することを、職員会議にて承認してもらった。

(5) Schoologyへの登録

グローバル・クラスメートの活動を行うためには、

まずSchoologyというサイトに参加生徒全員が個々にメンバー登録する必要がある。そしてその際、実名と顔写真を公開することが原則である。そのため、生徒に顔写真を用意させ、KACより通知されたアクセス・コードを使って、生徒にSchoologyにメンバー登録させた。ネットワークの問題なのか、なかなか登録が完了しなかったり、サイトの反応の鈍さに失敗したとやり直す中で二重に登録してしまったりと、ややてこずったものの、9月の初旬には全員が登録を完了し、それ以降の本格的な活動につなげることができた。なお生徒に対しては、この登録作業を「Global Classmates Session 1」と位置付けた。

5. 活動内容詳細

(1) 活動回数

平成25年度9月から3月まで計22回、月当たり3.1回の活動を行った。なお、平成26年度4月に番外編の形でもう一回行っている。詳細は下記の通りである。なお、月毎の活動内容の一覧は資料1を参照のこと。

Session 1：9月3日（火）

Session 2：9月10日（火）

Session 3：9月17日（火）

Session 4：9月24日（火）

Session 5：10月1日（火）

Session 6：10月17日（木）

Session 7：10月29日（火）

Session 8：11月5日（火）

Session 9：11月12日（火）

Session 10：11月19日（火）／21日（木）

※放課後の行事の関係で、1,2年生が別日程にて活動

Session 11：11月26日（火）

Session 12：12月13日（火）

Session 13：1月8日（水）

- Session 14: 1月11日 (土)
- Session 15: 1月14日 (火)
- Session 16: 1月21日 (火)
- Session 17: 1月28日 (火)
- Session 18: 2月4日 (火)
- Session 19: 2月10日 (月)
- Session 20: 3月10日 (月)
- Session 21: 3月25日 (火)
- Session 22: 3月29日 (土)
- Session 23: 4月19日 (土)

※番外編：Google hangoutによるビデオ・チャット

(2) メッセージの交換

グローバル・クラスメートの中心をなす活動である。一定のトピックを設定し、生徒はそのトピックについてメッセージを投稿し、その一方で、相手校からの投稿に目を通しreplyを送る活動である。「学校生活」のような、幅広い内容を含むトピックの場合には、全員が同じ内容のメッセージを投稿しないよう、あらかじめクラス毎に小テーマを設定させ、テーマの調整を行った後にメッセージの投稿に移らせた。

実際のメッセージの交換に当たっては、コミュニケーションの流れを保証する意図もあって、自分の最初の投稿に対するreplyには、必ず再度replyを返すよう生徒には指導した。また、相手校からのメッセージの投稿があった場合には、最低3人に対してreplyを返すよう指導もした。

グローバル・クラスメートは、英語での交流が基本となっているが、本校の場合は、米国の高校生ながら日本語を履修している生徒が相手であり、この活動が日本語の授業の活動の一環となっているという特殊事情のため、日英語併記の形でメッセージが投稿された。本校の生徒はまず英語でメッセージを書いた後、それに日本語訳を併記した。一方 Stevenson School の生徒側からは、日本語のメッ

セージに英訳が併記されていた。なお、生徒がメッセージ中に用いた英語を細かにチェックすることは控えた。毎回、膨大な数で発信されるメッセージの英語をチェックすることは現実には難しいと思われたし、すでに発信されたメッセージを添削することにも意味が感じられなかった。Accuracyよりも Fluency を磨く活動と割り切り、こちらが指示した形で全員がメッセージを送信したかどうかを大雑把に確認するにとどめた。

各 Session では、最初にその日の活動の内容と、連絡事項などを説明した後は、各自で作業させ、終了した生徒より流れ解散の形にした。実際の活動時間は生徒により違いがあったが、25分ほどで終了する生徒もいれば、50分以上にわたって作業に取り組む生徒もいた。

合計9のトピックでメッセージの交換を行ったが、本校と Stevenson School 両校の生徒の投稿総数は2,130で、1トピック当たりの平均は236であった。生徒1人当たりの平均投稿総数は32.8、1トピック平均の投稿数は3.6であった。

もっとも Omiyage Exchange のお礼をディスカッション・トピックとした場合は、何度もreplyを送りあう形にはなりづらい。このトピックは、本校側からのお礼と Stevenson School 側からのものとして、合計2回行われた。また最後のディスカッション・トピックである Farewell Message は実質上最終の Session で取り上げたものなので、最初のメッセージの投稿後ほどなくしてこの活動自身が終了し、互いにreplyを送りあうことがほとんどなかった。

上の3つを除いた、より活発にメッセージの交換が行われていた残りの6つのディスカッション・トピックについてのみ集計を取ってみると次のようになる。両校生徒の投稿総数は1,939、1トピック当たりの平均は323、生徒一人当たりの平均投稿総数は29.8、1トピック当たりでは5.0。つまり、1つの話題に対し、生徒は平均で5つの英語のメッセージ

を送ったことになる。

9月から翌3月までの7か月とはいうものの、その間に3回の定期考査（2学期中間、期末、3学期期末）、さらに2週間以上にわたる冬休みと1週間弱の修学旅行を間に挟んでいるため、実質的に5か月半の期間での活動であった。その期間に、生徒は30回以上にわたって、英語で情報や自分の考えや気持ちを手紙に伝えようとした。実践的なコミュニケーションの手段として英語を使う練習としては、かなりの練習量になっていると考えることができる。なお、本校生徒で最も投稿数の多い生徒は、この活動において合計85のメッセージを投稿している。

※ディスカッション・トピックの一覧、および各トピックにおける投稿数に関しては資料2を参照のこと。

(3) Media Albums

本校からは「Boys and Girls tennis tournament」, 「The School Festival」, 「Belated Introduction of the Members」の3のアルバムを作成した。一方Stevenson School側は「おみやげ、ありがとう」を作成してくれた。

「Boys and Girls tennis tournament」は、テニス部の新人大会の様子を写したものである。掲載した写真はわずかに5枚で、Media Albumの試用の意味合いでのものであった。

「The School Festival」は、本校の開校記念祭（文化祭）の様子を写したものである。各生徒に、自分が関わった部署に関する写真を1枚ずつと指示したが、担当部署のダブリもあって34枚の写真の掲載に終わった。（6枚不足である）

「Belated Introduction of the Members」は、参加している生徒のクラス毎の集合写真である。1, 2年生各クラスの計6クラスからの生徒が参加しているので、6枚の写真が掲載された。一人一人の生徒の顔写真はサイトに登録されており、メッセージを投稿するたびに、名前に合わせて表示されるのだが、

クラス単位で活動している部分もあるため、あえてクラス毎の写真載せてみた。なお、生徒個人の写真は、学校外で撮影されたものも多く、制服姿でない場合が多い。一方、ここに載せた写真ではすべての生徒が制服姿であり、そのことだけでもアルバムとして掲載する意味があったかもしれない。

「おみやげ、ありがとう」は、Omiyage Exchangeでこちらが送った贈り物を、Stevenson Schoolの生徒が受け取った様子を写したものである。一人一人の写真なので、合計25枚の写真が掲載されていた。

文字媒体に限定せず、視覚にも訴えることがMedia Albumの主旨だと思われるが、生徒たちには、それほどインパクトはなかったようである。現実には、終了時アンケートにおいて、Media Albumに触れた回答はほとんどなかった。動画でなければリアリティを感じづらいというのが日米を問わず現代の高校生なのかもしれない。

(4) Omiyage Exchange

異文化体験という面で、本校生徒にとって最も印象的であったのは、このOmiyage Exchangeであった。相手校のStevenson Schoolからは、クリスマス・プレゼントの形で12月下旬に届いた。向こうの担当である長島先生によれば、感謝祭の休み中の旅行先や帰省先で購入した者も少なくなかったとのこと。送られてきたのは、調味料入れ、ピン・バッジ、キーホルダー、影絵用の人形セット、コアラの人形、ゴールデン・ゲート・ブリッジの模型、T-シャツなどの品物に加えて、様々なお菓子類や食品であった。

またOmiyageの発送に合わせる形で、寸劇仕立ての贈り物紹介のビデオも作製され、計7本のビデオがYouTubeにアップされていた。その動画中では相手校の生徒は、ほぼ全面的に日本語で話しており、流暢とはいえないまでも、日常の簡単なコミュニケーションには不自由はしないのではと思われる

レベルだった。

残念ながら、本校に Omiyage が届いたのは、終業式が終わった後であったため、送られてきた品物の披露は年明けになった。1月の第2土曜日の午後を使い、普段の活動場所であるコンピュータ・ルームではなく、少し大きめの部屋でプロジェクターの使用もできる場所ということで、物理室で行った。

最初に YouTube にアップされていた Omiyage 紹介のビデオを生徒に見させた。視聴に当たっては、その場で YouTube に接続するのではなく、あらかじめビデオをすべてダウンロードしておき、それをプロジェクターで投影する形で上演した。

その後、Omiyage の披露に入った。実はその様子をビデオに撮影し、相手校に送ることになっていたため、最初と最後に少し演出を加えた。まず、私の方から Stevenson School からお土産が届いた旨を全員に伝えた。続いて、各クラスの生徒が、順に箱から贈られた品物を数品ずつ机の上に出しながら、参加メンバー全体に披露した。もちろんその際の使用言語はすべて英語である。そして、すべての品物の披露が終わった後は、机の上に広げられた贈り物を囲む形に全参加生徒が集まり、代表の生徒に簡単な謝辞を述べさせ、最後に全員で “Thank you” と言いながらお辞儀をし、その後、生徒はそれぞれ手を振りながら “Bye!” と言って画面から外れていく形で締めくくった。なおこのビデオは、その後こちらから Stevenson School に Omiyage を送る際に DVD に焼いて同封した。

さて贈られた品物の内で、食品以外は一旦学校預かりとしたが、食品に関してはその場で分けることになった。マカロニやスプレッドなどは希望の生徒が持ち帰ったが、お菓子類はその場で開封し、みんなで分けて食べることにした。その際、日米の味覚の好みの違いに多くの生徒が驚きを禁じ得なかった。いろいろなお菓子を食べながら、なかなか複雑な表情を浮かべる生徒が多かったと記憶している。

次いで、Omiyage に対するお礼のメッセージをディスカッション・トピックに設定し、次の活動日にメッセージを投稿させた。また、当日一旦学校預かりとなった品物は、3月末に最後の活動として、くじ引きで参加生徒に配布した。

一方、本校から Stevenson School へのお土産は、日本らしいもの、米国では手に入りづらい物を贈るというコンセプトで品物を選ばせた。そのため当初より年が明けてから発送する予定であった。11月半ば頃より、送る品物を検討させ、その後各クラス4品ずつくらいの案を出させ、クラス間でダブリがないよう調整した。年が明け、Stevenson School 側からの Omiyage が届いた後には、贈られた品物に少しでも釣り合いが取れるよう、お菓子類などを多少加えさせた。贈る品物が確定し、品物の調達が済んだら、今度はその品物をデジカメで撮影し、その画像を添えた英語での説明文を作成させた。本来は、手書きの説明文ということになっていたが、見栄えを考え MS-Word で作成させ、最後に寄せ書きふうにより、一人一人が肉筆で短いメッセージを添える形にした。贈った品物の一覧はここでは省くが、主に以下のようなものであった。

書き初め作品、折り紙、千歳あめ、数珠、花札、節分グッズ(鬼の面と豆)、お茶の葉、サトウのごはん、飾り物の門松、扇子、紙風船、漫画本、菓子類

相手校から贈られた品物と比べると、量の面でも費用の面でもやや見劣りするが、それはそれで構わない旨のアドバイスをコーディネータの方よりいただいたので、そのまま送ることにした。本校からの Omiyage の発送は2月6日であった。なお、各品物の購入代金は個々の生徒自身の負担であった。相手校への郵送費のみを学校が負担した。

活動全体の終了間際にお土産が届く格好となったからか、Stevenson School 側では開封の様子ビデオ作製は行わなかった。その代りに、本校同様に

くじで分配されたお土産を手にした生徒たちの写真がMedia Albumの形で投稿されていた。また、向こう側からもお礼のメッセージがディスカッション・トピックに設定され、一人一人の生徒よりお礼のメッセージが投稿された。

(5) Global show you

クラス毎に1本、計6本のビデオを作成させた。11月の下旬くらいから、各クラスにテーマの設定を呼び掛け、12月の中旬に以下のようにテーマを決定させた。

部活動 / お弁当の様子 / 先生にインタビュー / 学校の施設紹介 / 自動販売機 / 高校生の日常

続いて、生徒には5分程度のビデオにすることを伝え、内容・構成の検討に入らせた。そして、12月の期末考査終了後から終業式までの2週間ほどの期間で撮影を済ませ、年内にファイルを提出するよう指示した。

ビデオ中の使用言語については、以下の三つの選択肢を与えておいた。A) 英語のみを用いる、B) 日本語で話し、それに逐次通訳が入る、C) 日本語で話し、英語の字幕を付ける、の三つであった。実際には、ナレーションなしで字幕のみのパターンも登場した。

撮影機器に関しては、希望があれば学校のビデオやデジカメを貸し出した。公開場所がYouTubeであるため、自分たち以外の生徒や教員を撮影する場合には、その旨を伝え了解を得ておくよう指導もした。

さて、当初の予定では1月の中旬にはYouTubeにアップして、Stevenson Schoolの生徒に対して一斉公開の予定であったが、実際には約1か月遅れた2月の中旬にようやくアップが終了した。全体の構成や実際の撮影にも時間がかかったのであろうが、おそらく遅れの一番の原因は、様々な演出や加工をビデオに加えるのに時間がかかったことであろう。

オープニングとエンディングに画像や動画を配し、BGMを付け、場面の切り替わりには様々なイフェクトを利用し、多様な字幕やキャプションを加えるなど、いろいろな面で凝った作品に仕上がっていた。

2月の中旬になってようやくYouTubeへのアップへ漕ぎつけた。生徒の中にYouTubeのアカウントを持っている者もいたので、その生徒には自分のアカウントからアップさせた。クラス内にアカウントを持つ生徒がいない場合は、私のアカウントからアップさせた。ただし、動画のアップ自身はすべて生徒の作業とした。私の方では手順を示したハンドアウトを作成し、それに沿って行うよう生徒に指示した。アップが終わったクラスの生徒には、URLを報告させて作業完了とした。

その後私の方でSchoologyの中のFiles/LinksというページにURLの一覧を書き込み、Stevenson Schoolの生徒も本校の生徒も簡単にビデオが見られる準備をしてこの活動は完了した。他のクラス作成のビデオを見ることは3月初旬の活動の一部とした。なお、これらの動画の一部は現在でもYouTube上で視聴が可能である。“Global Show You”または“GlobalShowYou”(スペースなし)の検索ワードで見つけることができるはずである。

一方、Stevenson School側は、同時に行われていた「ビデオ甲子園」の方にシフトしており、本校を対象としたビデオの作製はなかった。もっともOmiyage Exchangeの際のビデオで、すでに本来の目的は果たしていたとも言える。Stevenson School作成のビデオに関してはSchoology上に「ビデオ甲子園」へのLinkがあり、生徒はそれを辿って視聴していた。

(6) オンライン・ミーティング

これは本来のグローバル・クラスメートの活動が終了した後に行った番外編の活動である。かねてより相手校の長島さんと、最後に一度、Skypeを使ってリアルタイムで互いの生徒同士を会話させたい旨

話し合っていた。しかし、お互いの学校の行事の都合など3月中には実施ができなかった。3月末に希望者を募り、長島さんと打ち合わせの後、年度が変わった4月になってようやく実現した。ソフトは多元中継が可能という点でGoogleのhangoutを使用した。日本時間で土曜日の午後、アメリカ時間で金曜日の夜であった。参加したのは、本校生徒5名と私、米国側は生徒6名と長島さん、さらにKACの方が1人調整役として加わり、計14人であった。本校は学校より全員がPC1台で、米国側は長島さんと学生3人が学校の寮からPC1台、さらに3人の生徒が個別に自宅からで計PC3台、そしてKACの方が(おそらく日本から)PC1台の、計6台のPCを結んでのオンラインでの交流であった。

インターネットによって距離の壁を越えたりリアルタイムの会話に、本校の生徒は興奮気味であったが、残念ながら会話に参加する姿勢はやや受け身であった。質問を振られればちゃんと答えるが、なかなか自分から話題を提供して会話を展開していくことはできなかった。参加したのは、英語力も高く、サイト上では饒舌な生徒たちであったので、この様子には少しがっかりであった。

6. 評価

第21回目の活動(Session 21)において、KAC作成の終了時アンケート(オンライン版)を実施した。Schoologyのサイトから、アンケートのページに移動し、各生徒がフォームを埋めていく形式のものであった。私はそのアンケート結果を、自身で集計・分析したいと思っていたので、そのアンケートのプリントアウト版をKACに請求したところ、PDFファイルの形で送付されてきた。それを印刷して配布し、Web上のオンライン版のアンケートに回答すると同時に、同じ内容をプリントアウト版にも転記して提出するよう生徒に求めた。以下が、そのアンケートの集計結果に対する私の分析および考察であ

る。

なお、アンケートの集計結果そのものは資料3(多肢選択形式分)、資料4(自由記述回答分)を、またアンケートの全体の姿は資料5を参照のこと。なお、アンケート中の日本語に、一部不自然な部分が見られたが、そのまま引用してある。

(1) グローバル・クラスメート 参加学生終了時アンケート 分析・考察

Q4より

アンケートに回答した生徒38人のうちで、米国訪問の経験者は13人(34.2%)で、日本の高校生の集団としてはかなり多い方だと思われる。

Q5より

しかし、その13人のうちでホームステイ経験者は1人のみ。居住経験のあるもう1人を除くと、残り11人はすべて私的な旅行での訪問であった。

Q7およびQ9より

そのため、米国の同年代の若者との交流の経験は乏しく、これまでに交流の経験のある生徒はわずかに6人(15.8%)、現在交流を行っている生徒はさらに少ない4人(10.5%)のみであった。

∴今回のグローバルクラスメイトプログラムは、多くの生徒にとって、初めての米国の若者との交流であった。

Q11より

グローバルクラスメイトプログラムに対する満足度は、「とても満足」4人(10.5%)、「満足」17人(44.7%)、「どちらかといえば満足」10人(26.3%)で、8割以上の生徒が一定の満足感を覚えている。

一方「どちらかといえば不満」5人、「とても不満」2人の計7人が不満の意を表明している。(「不満」は回答ゼロ)Q12の自由記述の回答からは、もっと私的でもっと親密な交流を望む気持ち

が窺がえる。

Q13より

グローバルクラスメイトプログラムのどのような部分に価値を感じたかに関しては、「米国文化への理解が深まった」28人(73.7%)、「米国の生徒とのつながり」18人(47.4%)が1位、2位で、生徒は異文化交流に価値を見出していることが窺がられる。Q14の自由記述の回答でも、「一番楽しかったのこと」として生徒があげているのは「Omiyage Exchange」が圧倒的であった。(24人、63.1%)

上記以下は、僅差で「英語でのコミュニケーション上達」17人(44.7%)、「授業で学んだ事を日常的(現実的)なシチュエーションにおいて適用すること」16人(42.1%)、「さらに英語を勉強したいというやる気が湧いた」13人(34.2%)が続いている。

Q15～Q20より

グローバルクラスメイトプログラムによって得られた成果を問う質問である。

もっとも多く支持されたのは「Q17 もっと英語でコミュニケーションを取りたいと感じるようになった」で「とてもあてはまる」「あてはまる」の回答の計が28人(73.7%)、「どちらかと言えば当てはまる」も含めれば計37人と、ほぼ全員が肯定的に解答している。

次いで多いのは「Q15 コミュニケーションにおいて、より上手く要点が伝えられるようになった」で「とてもあてはまる」「あてはまる」の回答の計は13人(34.2%)と少な目だが、「どちらかと言えば当てはまる」を含めれば計34人(89.5%)が肯定的な回答をしている。

同様に「Q19 英語でコメントを書くことが容易になった」でも、「あてはまる」の回答が13人(34.2%)、「どちらかと言えば当てはまる」を含めれば計33人(86.8%)が肯定的な回答をしている。

(「とてもあてはまる」の回答はなし)

それに対して、否定的な回答が多かったのは「Q18 英語でのコミュニケーションにどれくらい自信ができましたか?」で、肯定的な回答が合計24人(63.2%)に対して、否定的な回答は14人(36.8%)と3分の1を上回っている。幸いなことは、この14名の回答すべてが「どちらかと言えば当てはまらない」である点であろう。

Q21～24より

日米の文化に対する姿勢の変化を問う質問である。どの質問にもほぼ全員が肯定的な回答をしている。

興味深いのは「Q21 アメリカの文化をより知ることができたと感じる」が、「とてもあてはまる」6人(15.8%)、「あてはまる」24人(63.2%)と支持が一番高い。

二番目は「Q22 より自分の文化を理解するようになったと感じる」で、「あてはまる」23人(60.5%)、そして三番目は「Q24 より上手に自分の国と文化について伝えられるようになった」で、「とてもあてはまる」1人(2.6%)、「あてはまる」12人(31.6%)であった。

∴異文化交流において、日本の高校生は異文化を知ることに関心が強く、自文化の発信には意識が薄いのかもしれない。

Q25～29より

異文化交流に関する意識や意欲の変化を問う質問である。全ての質問に対してほぼ全員が肯定的に回答している。

Q30～32より

パートナークラスメートに対する意識を問う質問である。

「Q30 強いつながりを感じる」は、肯定の回答は30人(78.9%)と多いが、「どちらかと言えば当

てはまる」が24人と大多数を占め、現実には「強いつながり」ではない感じも受ける。

「Q31 直接会いたい」という希望をほぼ全員が表明し、特に「とてもあてはまる」8人(21.1%)、「あてはまる」18人(47.4%)と実に意欲的である。

しかし「Q32 プログラム終了後も連絡を取り合う予定です」では33人(86.8%)が否定的な回答をしており、とりわけ「当てはまらない」15人(39.5%)、「全く当てはまらない」9人(23.7%)で、前の二つの質問に対する回答とはきわめて対照的である。もっともプログラムが終わったら、生徒のレベルでは連絡の取りようがない、というのが現実であるが。

Q33より

センパイの貢献度を問う質問である。ほぼ全員が肯定的に回答している。

Q37より

再度のグローバルクラスメイトプログラムへの参加希望はそれほど高いとは言えない。「とてもあてはまる」、「あてはまる」の計が14人(36.8%)にとどまり、一方8人(21.1%)は不参加の意思を表明している。

その原因をQ35、Q36への回答から推測するに、以下の3点に収束すると思われる。

- ▶もっと私的で密な交流への要望(Q35で9名、Q36で4名の生徒が言及している)
- ▶チャットやSkypeなどのリアルタイムなコミュニケーションへの要望(Q35で5名、Q36で4名の生徒が言及している)
- ▶もっと自由なトピックでの交流への要望(Q35で4名、Q36で2名の生徒が言及している)

∴今回のグローバルクラスメイトプログラムは、初めての異文化交流としてはとても刺激的であった。この活動を通して米国文化そして広

く異文化への生徒の関心が高まったと考えられる。また英語を使ってコミュニケーションすることに対しても、一定の習熟がなされたとも考えられる。

しかし、コミュニケーションの形態としてはやや表面的で、生徒はより少人数での密度の濃い交流を望んでいることが窺われる。文字中心のやり取りにも物足りなさを感じているようで、直接的な会話での交流を望んでいる。またコミュニケーションのための英語の使用には慣れてきたものの、英語のスキルアップそのものは実感できていないことが窺われる。

7. 終わりに

以上が、昨年度9月より翌3月までの計7か月にわたって行われたGlobal Classmatesの活動内容と、参加生徒による評価のまとめである。全体としては少人数を対象とした、やや不定期な形の活動であったが、参加した生徒は、本物の異文化コミュニケーションを体験できたこと、また動画作成やOmiyageの交換など、日常の教室での授業では行いづらい活動に加わったことに、それぞれ充実感を覚えていたことと思う。

このGlobal Classmatesの活動は、今年度は別の教員が中心となって引き続き実施している。昨年度同様にStevenson Schoolを相手校に9月より活動を開始した。今年度は参加生徒を1年生のみとし、また昨年度の反省を踏まえ、本校側の参加人数を22名と、Stevenson School側とほぼ同数の参加数に絞り、それを昨年同様にA、Bの二つのグループに分けることで、より個人的な交流に近づけている。9月中に第1回目のオンライン・ミーティングも実施済みである。本稿を執筆中の12月末の段階で、Omiyageの交換はすでに終わっており、今後は相手校側から贈られたOmiyageの披露と、「ビデオ甲子

園」用の動画の作成が行われる予定である。今年度のGlobal Classmatesが昨年同様、いやそれ以上に実りの多い結果となることを願ってやまない。

資料1

Global Classmates 活動実績

月	Discussion Topic	その他の活動	実施回数
9	・自己紹介 ・一ばんすきな食べ物 / 私のおすすめの食べ物	SchoologyにSign Up	Session 1 ~ 4
10	・学校生活	Media Album：テニス部新人大会	Session 5 ~ 7
11	・年間行事 / 将来の夢の仕事	Media Album：開校記念祭 ：メンバー紹介 Global show you：テーマ決定	Session 8 ~ 11
12		Global show you：撮影 Omiyage Exchange：品物選定	Session 12
1	・冬休みをどう過ごしたか ・お土産ありがとう ・学校自慢	Omiyage Exchange： ・送られてきたお土産の披露 ・品物調達, 紹介文作成 Global show you：撮影・編集	Session 13 ~ 17
2		Omiyage Exchange：お土産発送 Global show you：動画のアップロード	Session 18, 19
3	・おみやげ, ありがとう ・Farewell Message お別れメッセージ	終了時アンケート Omiyage Exchange：お土産抽選会	Session 20 ~ 22

※Discussion Topicはそれが設定された月に記載してある。通常1つのDiscussion Topicについて2～3週間にわたって投稿がなされていた。

※4月には番外編として、Googleのhangoutを使ったオンライン・ミーティングも行った。参加生徒は本校側5人、Stevenson School側6人であった。

資料2

Global Classmates Discussion Topic 一覧

※二つ併記されている場合は、左がGroup A用で、
右がGroup B用のもの。()はGroup A,
Group B, そして合計の投稿数。なお, 6, 8, 9
はGroup A, Bが合同で行ったもの。

1. 自己紹介 (146 + 305 = 451)
2. 一ばんすきな食べ物 / 私のおすすめの食べ物 (99 + 196 = 295)
3. 学校生活 (119 + 246 = 365)
4. 年間行事 / 将来の夢の仕事 (111 + 182 = 293)
5. 冬休みをどう過ごしたか (114 + 191 = 305)
6. お土産ありがとう (From Kindai Fuzoku High School to Stevenson High School) (86)
7. がっこうのじまん / 学校自慢 (68 + 162 = 230)
8. おみやげありがとう! by スティーブンソンの生徒 (30)
9. Farewell Message お別れメッセージ (75)

Discussion Topic総数：9 投稿総数：2,130 Topicあたり平均投稿数：236

※6, 8, 9を除いた場合

Discussion Topic総数：6 投稿総数：1,939 Topicあたり平均投稿数：323

資料3

2014 Global Classmates 参加学生 終了時アンケート 集計結果

※Q1～Q3は「性別」「学校名」「年齢」なので省略

Q4 米国を訪れたことがありますか？

はい	いいえ
13人	25人

Q5 米国に何の目的で訪れましたか？（当てはまるもの全て選択）

ホームステイ	交流プログラム	個人旅行	その他
1人	0人	12人	1人(居住)

Q7 グローバルクラスメートプログラムに参加する前、何名の米国に住む10代の米国人と交流したことがありますか？

0	1	2	3	他
31人	1人	3人	1人	2人

Q8 その10代の米国人とは何を通じて出会いましたか（当てはまるもの全て選択）

米国でのホームステイ	ホストファミリーとして米国人学生を受け入れ	米国への個人旅行	米国での交流プログラム	他
1人	3人	1人	1人	4人

Q9 現在、グローバルクラスメートプログラム以外に、何人の米国に住む10代の米国人と継続的に連絡をとって（交流して）いますか？

0	1	2	3	他
34人	2人	1人	0人	1人

Q10 グローバルクラスメートプログラムへの参加は（あてはまるものを全て選択）

授業時間中に	宿題として	自由な時間を使って	学校の部活動として	他
21人	0人	16人	7人	0人

Q11 グローバルクラスメートプログラムに参加してどれくらい満足していますか？

とても満足	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	とても不満
4人	17人	10人	5人	0人	2人

Q13 グローバルクラスメートプログラムに参加して価値があったこと（あてはまるもの全て選択）

1	2	3	4	5	6	7
17人	16人	18人	9人	28人	13人	1人

1. 英語でのコミュニケーション上達
2. 授業で学んだ事を日常的（現実的）なシチュエーションにおいて適用すること
3. 米国の生徒とのつながり

4. 英語の勉強が楽しくなった
5. 米国文化への理解が深まった
6. さらに英語を勉強したいというやる気が湧いた
7. その他（説明してください）

※これ以降は、◎（とてもあてはまる）、○（あてはまる）、△（どちらかと言えば当てはまる）、▼（どちらかと言えば当てはまらない）、×（あてはまらない）、××（全くあてはまらない）の表記を用いる。

Q15 プログラムを通して、パートナークラスメートとのコミュニケーションにおいて、より上手く要点が伝えられるようになった（伝えたいことが伝えられるようになった）

Q16 プログラムを通して会話の中での（文章内での）文法や単語をより上手く使えるようになった。

Q17 グローバルクラスメートプログラムへの参加を通じて、もっと英語でコミュニケーションを取りたいと感じるようになった。

Q18 グローバルクラスメートへの参加を通じて、英語でのコミュニケーションにどれくらい自信がつけましたか？

Q19 プログラムを通して、英語でコメントを書くことが容易になった。

Q20 英語（もしくは米国）の文化により適した形で考えやアイデアを表現できるようになったと感じる。

	◎	○	△	▼	×	××
Q15	1人	12人	21人	2人	2人	0人
Q16	2人	7人	18人	8人	3人	0人
Q17	14人	14人	9人	0人	1人	0人
Q18	0人	7人	17人	14人	—	0人
Q19	0人	13人	20人	3人	2人	0人
Q20	0人	8人	19人	9人	2人	0人

※Q18には「あてはまらない」に相当する選択肢が設定されていなかった。

Q21 プログラムを通して、アメリカの文化をより知ることができたと感じる。

Q22 プログラムを通して、より自分の文化を理解するようになったと感じる。

Q24 プログラムを通して、パートナークラスメートにより上手に自分の国と文化について伝えられるようになった。

	◎	○	△	▼	×	××
Q21	6人	24人	7人	0人	1人	0人
Q22	0人	23人	14人	1人	0人	0人
Q24	1人	12人	22人	2人	0人	0人

Q25 グローバルクラスメートプログラムに参加したことで、異なる文化背景を持つ人々とコミュニケーションを取ることが気楽に感じられるようになった（抵抗が少なくなった）。

Q27 グローバルクラスメートプログラムに参加した事で、留学を通して異文化を学びたいと思う気持ちが強くなった。

Q28 グローバルクラスメートプログラムに参加したことで、米国をいつか訪れたいと思う気持ちが強くなった。

Q29 グローバルクラスメートプログラムに参加したことで、英語勉強を続けたいと思う気持ちが強くなった。

	◎	○	△	▼	×	××
Q25	8人	16人	13人	0人	1人	0人
Q27	11人	15人	9人	1人	1人	1人
Q28	13人	18人	5人	2人	0人	0人
Q29	15人	16人	6人	1人	0人	0人

Q30 パートナークラスメートとの強いつながりを感じる

Q31 パートナークラスメートに直接会いたい。

Q32 パートナークラスメートとプログラム終了後も連絡を取り合う予定です。

	◎	○	△	▼	×	××
Q30	1人	5人	24人	3人	4人	1人
Q31	8人	18人	10人	1人	1人	0人
Q32	0人	1人	4人	9人	15人	9人

Q33 グローバルクラスメートにセンパイが参加してくれたことは有意義だった。

◎	○	△	▼	×	××
3人	11人	16人	2人	1人	0人

Q37 もし機会があったら、もう一度グローバルクラスメートプログラムに参加したいです。

◎	○	△	▼	×	××
5人	9人	16人	5人	2人	1人

Q38 Schoologyに授業以外の時間にアクセスしましたか？

頻繁に	時々	ごくたまに	まったくなし
2人	15人	18人	3人

Q39 授業以外では、どのようにSchoologyにアクセスしましたか？

学校のPC	自宅のPC	iPad, Tablet PC	携帯電話	その他
9人	15人	15人	15人	0人

資料4

Global Classmates Questionnaire 自由記述回答 集計・分類

Q5 米国に何の目的で訪れましたか？（その他）

居住

Q7 グローバルクラスメートプログラムに参加する前、何名の米国に住む10代の米国人と交流したことがありましたか？（その他）

300人以上 / 50人くらい

Q8 その10代の米国人とは何を通じて出会いましたか？（その他）

友人の友人 / インターネット、学校の交流プログラム / 親の都合で居住 / SNS

Q9 現在、グローバルクラスメートプログラム以外に、何人の米国に住む10代の米国人と継続的に連絡をとって（交流して）いますか？（その他）

10-20名程度。

Q12 (Q11 グローバルクラスメートプログラムに参加してどれくらい満足していますか？ に続けて) その理由を説明してください。

<肯定派>

[異文化交流] (18件)

実際に外国に住んでいる同い年の人と情報を交換していろいろなことを知ることができたから。

日本国内にとどまらず、多くの人と自分の英語のスキルをいかして、コミュニケーションをとれたことが私の大きな力になったと思うからです。

交流の頻度が少なかったが、さまざまなお題で取り組めたから。

異文化体験や外国人交流を楽しめたから。

アメリカの高校生と交流を持つ機会を得ることができたから。

楽しかったから。「とても」ではないのは自分が後半余り参加できなかったから。

外国人と交流ができただけで満足。

海外の若者と交流できたから

あまり交流する機会のない人と話すのが楽しかったから。

海外の同世代の人と気軽に交流することができ、様々な考え方や文化に触れることができたから。

少しでも同世代の方と交流することができたし、物事の言い回しも少し知ることができたから。

普段交流することのない、海外の学生と交流ができるということに満足している。

普段は交流することのないアメリカの高校生とかかわることができたから。

海外の人々とインターネットを通して交流するのは初めての体験だった。

アメリカの文化を知り、メールを通して実際にアメリカの学生と交流ができたから。

普段なかなか交渉できない人々と交流できたから。

同年代の人と交流できるから。

アメリカのことを知ることができた。

[英語運用] (4件)

英語を使って英語圏の人と交流する良い体験ができたから
けっこう楽しかったし、英語に触れるいい機会になった。
英語を書く機会が少しでも増えたから。
英語を使う場面を増やすことができたから。

[その他] (1件)

SNSでの交流だけでなく、写真をアルバムを通して共有できて、とても面白かったから。

<否定派>

[頻度・密度] (5件)

Reply少ない。会話もう少ししたかった。
交流回数が少ない。
参加人数が多く、毎回パソコンの接続の待ち時間がムダに長かった。コメントのやり取りもスムーズに行えず、一方的に書き込んだだけのような気がした。
もうちょっとうちとけた交流があればよかった。そんなに仲良くなれた実感がない。
形式的なメッセージのやり取りばかりで、あまり私的な交流ではなかった。

[トピック] (2件)

話題が少しかたいように感じるがあった。
積極的に話を盛り上げる端緒となるようなトピック内容ではなかった。

[その他] (3件)

文章を読むのが大変。
英語で会話がしたかったから。
アメリカの学生とさまざまなやりとりができて楽しかったけど、TV電話など直接のやり取りをやりたかった。

Q13 グローバルクラスメートプログラムに参加して価値があったこと

実際の会話で使う表現などを学べた。

Q14 グローバルクラスメートプログラムに参加して、一番楽しかったことや面白いと思ったことは何か説明してください。

[Omiyage Exchange] (24件)

相手校が作ったビデオを見たこと。(Omiyage Exchangeの紹介ビデオ) (3件)

おみやげExchange (2件)

アメリカから届いたお土産を見たり食べたりして。
おみやげexchangeです。他文化を身をもって感じられました。
おみやげExchangeで紹介ビデオを見ることやお土産を交換したことが一番楽しかったです。
お土産エクステンジでのアメリカ文化体験。
おみやげ交換。自分の送ったものを楽しんで遊んでくれていたから。
アメリカの高校生の土産紹介のビデオを見たこと。

おみやげ交換の時に寸劇を見たこと。

おみやげ交換（選ぶのも、もらったものを見るのも）

Omiyage exchangeは、米国のOmiyageを目の前で見ることができ、体感することもできてたのしかった。

ビデオメッセージを交換しあって相手の人の映像が見れたこと。

お土産交換。相手校の学校の写真を見ること。

米国のお菓子を口にした。学校の様子を知ることができた。

お土産交換，ビデオ交換。

お土産exchangeでアメリカのお菓子やキーホルダーなどを見ることができたこと。

おみやげ交換で文化の違いを感じておもしろかった。準備も楽しい。

お土産交換における動画作成。

[異文化理解・体験] (4件)

日本と米国の文化の違いや、価値観のちがいがたくさんあって、知らないことも多く知ることができてよかった。

アメリカの学校の様子を知ることができたこと。

想像していたアメリカの高校生の生活が、日本と同じだったり、思っていたのと違ったりして毎週刺激を受けられたこと。

向こうの学校生活を文字や写真を通して体験できたこと。

[異文化交流・コミュニケーション] (5件)

質問に答えること。学校紹介。

趣味について話し合ったこと。

自分の投稿にたいして相手から返事があったこと。

英語を用いて意志を伝えること。

自分の発言に対して相手からちゃんと応答が返ってきた。

[その他]

今までにない経験ができたから。

Global show you (日本の文化・学校生活紹介のビデオ作成)

Q23 2つの文化の間にどのような共通点・異なる点を見つけましたか？

<共通点>

[文化に対する姿勢] (5件)

若者が文化の未来を担い、常に変動させていること。

その土地、人に合った伝統が受け継がれていた。

お互い自分の文化が好きになったこと。

どちらも自国の文化をあいしつつ、他国の良い文化を取り入れようとしている。

地域に根付いた文化と、それを楽しむ人々がいること。

[文化の同質性] (2件)

大衆文化にあまり違和感を感じなかった。

日本のサブカルはアメリカでも広まっているなど学生の好きなものは同じだと思った。

[その他] (4件)

家族を大切に思ったり家族を尊ぶこと

自国を大切に思っている。

アメリカの方が自主性が強いと思っていたけど、(全てにおいて) 必ずしもそうだとはいい切れないと思った。

日本人が英語を間違えるのと同じようにスティーブソン高校の人もところどころ日本語を間違えていたところ。

<相違点>

[食べ物・味覚] (11件)

味覚 (3件)

菓子への価値観

異なる点はお菓子の味。個人的には日本の方がやさしい味だと思った。

食物の違い。(2件)

お菓子の好みが全然違う。

味付けがおかしかった。

とにかく食べ物の味付け、食感など、すべてが違った。

濃い味・肉中心の食がアメリカ、薄味、魚中心が日本。

[学校生活] (11件)

学校生活の様子に多くの違いがあることが分かった。(服装・食事・寮生活など)

学校での雰囲気異なっていると感じた。(3件)

特に学校生活はかなり違っていて驚いたことが多かったし、アメリカの方がより自由な印象を受けました。

学生の自由度が全く違う。

制服や昼食など普通の学校生活の違い。

アメリカと日本の食文化はもちろん、学校のちがいが大きかったと思う。

学校生活が大きく違う。

米国は学校による活動にしろ規模が大きい。日本の学校とかではできないような専門的なこともしていると感じた。

日本と違いアメリカの学校は自由度が高いように感じた。

[国民性] (4件)

アメリカの方がユーモアのセンスがある。

アメリカは自己表現に恥じらいを持たない。どちらも相手のことを考えている。

若者が文化を担っているという事実使命感を強く持っているかどうか。

自己をどの程度他人に表現するかの範囲が相手側は広く私達はせまかったように思われた。

[年間行事など] (3件)

アメリカは国家的祭りで長休みをとるが日本ではそんなことがなく夏休みなどをとる。

サンクスギビング休みについて。

休日に国民的イベントが多いのがアメリカ、イベントは小規模が日本。

[その他]

日本よりも米国はたくさんの人種に溢れ文化も多様化していること。

Q26 その他、グローバルクラスメートプログラムへの参加を通じて、身についたと感じるスキル (力) があれば説明してください。

[Fluency] (8件)

自分の伝えたいことを英語にするスキル

他国の人とコミュニケーションをとり方法や仲良くなる方法を学びました。また、自国の文化の紹介も簡単にできるようになりました。

楽しく英語を使う力。

自分の知っている語いだけでもコミュニケーションをとろうとする意志。

学校や参考書から学ぶ文章ではない、生きたリアルな文章、英会話。

コミュニケーション能力。

英文をその場その場でパッパッと作る能力。

イディオムや若者言葉に触れることで学校で教わる堅い英会話から話し言葉により近付けるようになった。

[Skills] (6件)

英語作文力。(2件)

日本語を自然に英語に直す力。

自分の思っていることを英語にしやすい日本語にかえること。

英語をよみとる力。

日本にしかないものの英語での表現の工夫。

[Communication Strategy] (4件)

意志をもって文章を書く。

堂々と物事を尋ねられるようになった。

相手に分かりやすい単語や表現を使おうと意識するようになった。

話を深める質問を考える力。

[Motivation]

英語に自信がなくてもどんどん英語を使おうと思った。

Q34 センパイのどんなところが好きでしたか、またプログラム中にセンパイがいて助かったところはどうなところですか？説明してください。

[こまめなreply] (8件)

みんながコメントしてないところにフォローしてくれたこと。
先頭切って返信して下さり、心強かった。
質問のない人に質問してくれたこと。
コメントをよく返してくれた。
コメントをたくさんしてくれてコミュニケーションが円滑になった。
投稿が会話にならなかったとき、助け舟を出してくれたところ。
返事を返してくれたこと。
Replyをこまめにくださったところ。

[コミュニケーションの円滑化] (5件)

やり取りのフォローをしてくれたところ。
わかりやすいメッセージが届くところ。
コミュニケーションがよりスムーズに進められた。
より深い話ができるところ。
活動内容を参考にすることができ頼りになりました。

[投稿の手本] (4件)

最初のころ、どんなふうにコメントを書けばいいかわからなかったとき、見本になった。
先輩の書いた英文を読むことが私にとっての良い刺激になった。
どんな投稿をすれば良いのかの指標になった。
どんな返事をしたらよいのか迷った時などに参考にできた。

[率先して投稿] (3件)

始めたばかりの頃に率先して投稿をしてくれていたのが、自分も気軽にしようと思えるようになった。
話題を振ってくれたこと。
口火を切ってくれたところ。

[人柄] (2件)

親切でフレンドリーな所。 / わかりやすく接してくれた。

Q35 グローバルクラスメートプログラムでもっとこういう風にすれば（別のやり方でやってみれば）よかったのではと思う部分があれば教えて下さい。

[少人数化・個人化] (9件)

人多い。
それぞれが個人的にもっと投稿を増やしたりして交流を深めればよかったと思います。
もう少し個人と個人でやり取りがしたかった。
1対1の対話。

もっと個人同士のつながりを深くした方が、より話が続き名前とかも覚えられると思う。

1対1など、特定の相手との交流。そのほうがコメントのやり取りがスムーズになりそう。

1つのトピックに対してみんなが投稿するのではなく、1人対1人のやり取りにすればもっと深い話のできたのになあと思う。

個人個人のつながりを強くして、もう少し小規模でやってもいいと思う。

個人間でのメールやFacebookなど

[同時性] (5件)

Skypeしたかった。(4件) / 会話によるコミュニケーションをもっと取りたかった。

[トピックによる制約からの解放] (4件)

トピックを定めるのではなく自由に会話をした方が面白かったと思う。

自由なやりとりをふやす。

生徒自身が自由に話の内容を考える。

自由交流のできるトピックを常時一つは作成しておくことでさらに交流が促進されるのではと思う。

どの程度秩序を持った発言ができるかは個人に委ねるしかないが問題にはなってくる。

[その他] (2件)

もっと気軽にできたらいいと思う / リプライ3回の壁が高かった。相手の人数少ないし…。

Q36 グローバルクラスメートプログラムをもっと楽しく、価値のある経験にするために何か提案があれば教えて下さい。

[音声・動画の利用] (5件)

初めの方にもっと「ビデオを送る」などのような企画を増やせばよと思います。

ビデオ通話や電話。

画面上だけでなく直接しゃべったりしたかった。

テレビ電話機能が欲しい。

文章だけでなく会話でのコミュニケーション。

[少人数化・個人化] (4件)

もっと密なコミュニケーションをとってみたいかった。

個人のグループを作って自由に話ができたらよい。

1対1の対話。

1つのトピックに対してみんなが投稿するのではなく、1人対1人のやり取りにすればもっと深い話のできたのになあと思う。

[トピックの設定] (2件)

もっと勉強の話をした方がいいと思った / 生徒自身が自由に話の内容を考える。

[直接交流] (2件)

交換留学。 / 互いの国を訪れる。

[その他]

交流回数を増やす。

資料5

2014 グローバルクラスメート 参加学生 終了時アンケート

※ここでは質問項目のみをあげるにとどめる。

- Q1 性別
- Q2 学校名
- Q3 年齢
- Q4 米国を訪れたことがありますか？
- Q5 米国に何の目的で訪れましたか？（当てはまるもの全て選択）
- Q6 昨年もグローバルクラスメートに参加しましたか？
- Q7 グローバルクラスメートプログラムに参加する前、何名の米国に住む10代の米国人と交流したことがありましたか？
- Q8 その10代の米国人とは何を通じて出会いましたか（当てはまるもの全て選択）
- Q9 現在、グローバルクラスメートプログラム以外に、何人の米国に住む10代の米国人と継続的に連絡をとって（交流して）いますか？
- Q10 グローバルクラスメートプログラムへの参加は（あてはまるものを全て選択）
- Q11 グローバルクラスメートプログラムに参加してどれくらい満足していますか？
- Q12 その理由を説明してください。
- Q13 グローバルクラスメートプログラムに参加して価値があったこと（あてはまるもの全て選択）
- Q14 グローバルクラスメートプログラムに参加して、一番楽しかったことや面白いと思ったことは何か説明してください。
- Q15 プログラムを通して、パートナークラスメートとのコミュニケーションにおいて、より上手く要点が伝えられるようになった（伝えたいことが伝えられるようになった）
- Q16 プログラムを通して会話の中での（文章内での）文法や単語をより上手く使えるようになった。
- Q17 グローバルクラスメートプログラムへの参加を通じて、もっと英語でコミュニケーションを取りたいと感じるようになった。
- Q18 グローバルクラスメートへの参加を通じて、英語でのコミュニケーションにどれくらい自信ができましたか？
- Q19 プログラムを通して、英語でコメントを書くことが容易になった。
- Q20 英語（もしくは米国）の文化により適した形で考えやアイデアを表現できるようになったと感じる。
- Q21 プログラムを通して、アメリカの文化をより知ることができたと感じる。
- Q22 プログラムを通して、より自分の文化を理解するようになったと感じる。
- Q23 2つの文化の間にはどのような共通点・異なる点を見つけましたか？
- Q24 プログラムを通して、パートナークラスメートにより上手に自分の国と文化について伝えられるようになった。
- Q25 グローバルクラスメートプログラムに参加したことで、異なる文化背景を持つ人々とコミュニケー

ションを取る事が気楽に感じられるようになった（抵抗が少なくなった）。

Q26 その他、グローバルクラスメートプログラムへの参加を通じて、身についたと感じるスキル（力）があれば説明してください。

Q27 グローバルクラスメートプログラムに参加した事で、留学を通して異文化を学びたいと思う気持ちが強くなった。

Q28 グローバルクラスメートプログラムに参加したことで、米国をいつか訪れたいと思う気持ちが強くなった。

Q29 グローバルクラスメートプログラムに参加したことで、英語勉強を続けたいと思う気持ちが強くなった。

Q30 パートナークラスメートとの強いつながりを感じる

Q31 パートナークラスメートに直接会いたい。

Q32 パートナークラスメートとプログラム終了後も連絡を取り合う予定です。

Q33 グローバルクラスメートにセンパイが参加してくれたことは有意義だった。

Q34 センパイのどんなところが好きでしたか、またプログラム中にセンパイがいて助かったところはどんなところですか？説明してください。

Q35 グローバルクラスメートプログラムでもっとこういう風にすれば（別のやり方でやってみれば）よかったのではと思う部分があれば教えて下さい。

Q36 グローバルクラスメートプログラムをもっと楽しく、価値のある経験にするために何か提案があれば教えて下さい。

Q37 もし機会があったら、もう一度グローバルクラスメートプログラムに参加したいです。

Q38 Schoologyに授業以外の時間にアクセスしましたか？

Q39 授業以外では、どのようにSchoologyにアクセスしましたか？